

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3524		
科目名	犯罪心理学		
担当教員	鈴木 あい		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 2		
講義室	1310	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、 分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1 倫理的思考・社会認識（15%） E1 学識と専門技能（25%） G1 状況把握（15%） I1 理解・分析と読解（15%） I2 量的分析（15%） I3 情報分析（15%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	犯罪心理学は、犯罪者がなぜ犯罪を犯すに至ったのか、犯行の目的は何であったのかなど犯罪者の深層心理を追求し、犯罪者の特性や環境的な要因を解明することによって、同様の犯罪の予防や捜査、また、犯罪者の更生に役立つ知識やデータを提供しようとする心理学の一分野です。本科目では、犯罪心理学の基礎を学ぶとともに、具体的な実例をとりあげて、犯罪心理学がどのように実際の犯罪の予防や捜査、犯罪者の更生などに活用されているのか考察し、心理学的なアプローチから、犯罪捜査に関わる考え方を身に付けることを目標とします。また、新型コロナウイルス感染の状況に応じて、オンライン授業となる可能性があります。 （キーワード）犯罪・非行、犯罪予防、犯罪と市民社会		
授業の趣旨	■副題 犯罪と市民の心理学－犯罪リスクに社会はどうかかわるか ■授業の目的 本講義では3つを主目的とします。第一に、テレビや新聞では重大事件がセンセーショナルに報道され、そこでは犯罪者や非行少年の心理も論じられていますが、科学的な目で犯罪や非行を見なければ、実態を見誤るばかりか、対策をも誤らせてしまいます。このため、本講義では犯罪心理学・犯罪学の発展の歴史を学ぶことで、犯罪言説を批判的に捉え、個別事例や犯罪トレンドを各種の犯罪理論に当てはめて自分の言葉で考えられるようになることを目的とします。第二に、犯罪対策は多種多様にわたりますが、時に他の社会的価値と競合することもあります。このため、本講義では、各種犯罪対策の心理学的な背景について学ぶことで、受講生のみなさんが、犯罪対策のメリットとデメリットを分析し、犯罪対策を選択できる能力を身につ		

	けることを目的とします。第三に、犯罪心理学は犯罪者や非行少年の心理に興味がありがちですが、犯罪の被害者は、社会から好奇の目にさらされ、時に非難の対象にさえなってしまう。このため、本講義では、犯罪の加害・被害と、犯罪に対する社会の心理学的反応を取り上げることによって、受講生のみなさんが、市民社会の一員として犯罪リスクにどうかかわるかを主体的に考えることができるようになることを目的とします。 ■授業のポイント 犯罪や非行少年に対する好奇心的な興味・関心を、社会の犯罪対策や政策の重要な理解につなげてゆきたいと思っています。	
総合到達目標	■一般目標（GIO） 犯罪・非行の現象やその対策に関する心理学的背景についての基本的な知識を習得する。犯罪言説を批判的に捉え、個別事例や犯罪トレンドを各種の犯罪理論に当てはめて考える技能を習得する。 市民社会の一員として犯罪リスクにどうかかわるかを主体的に考える態度・習慣を習得する。 ■個別行動目標（SBOs） 社会での犯罪・非行問題や犯罪対策について、社会の一員として自分の視点から議論し、意見表明できるようになる（第1回～第15回）。	
成績評価方法	■適用ルーブリック C1(15%)、E1（25%）、G1（15%）、I1（15%）、I2(15%)、I3(15%) ■成績評価手段 授業内でのテスト（40%）：適用ルーブリックC1、E1、G1、I1、I2、I3 （評価の観点）授業の内容を踏まえて論理立てて明確に自分の考えを示せるかを測ります。 （フィードバックの方法）解答に引き続いて、模範解答を示しつつ、問題の趣旨を確認します。 小テスト（30%）：適用ルーブリックC1、E1、G1、I1、I2、I3 （評価の観点）授業の内容を踏まえて論理立てて明確に自分の考えを示せるかを測ります。 （フィードバックの方法）解答に引き続いて、模範解答を示しつつ、問題の知識をおさらいします。 出席（30%） ※比重は予定です。成績評価手段の詳細は、ガイダンス等で適宜説明します。	
履修条件		
履修上の注意点		
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法、学習法・研究法について説明し、受講者は、講義の概要や受講後の達成目標について理解する。（I1） ③予習 警察庁『令和3年版警察白書』第2章「生活安全の確保と犯罪捜査活動」第1節「犯罪情勢とその対策」を読む。 https://www.npa.go.jp/hakusyo/r03/pdf/09_dai2sho.pdf ④復習 ニュースやインターネットでの犯罪言説を収集する。
	2	①授業テーマ 犯罪心理学の研究法とデータ源 ②授業概要 犯罪心理学の研究法（量的研究・質的研究）やデータ源について説明し、受講者は、日本での犯罪調査や世論調査の現状について自分の言葉で説明できるようになる。（I2、I3） ③予習（120分） 法務省『令和3年版犯罪白書』第1編「犯罪の動向」第1章「刑法犯」と第2章「特別法犯」を読む。 https://www.moj.go.jp/content/001365730.pdf 法務省『令和元年版犯罪白書』第6編「犯罪被害についての事態調査」第1章「犯罪被害」第2節「犯罪被害についての実態調査」を読む。 https://hakusyo1.moj.go.jp/jp/66/nfm/mokuji.html ④復習（120分） ニュースやインターネットでの犯罪言説を収集する。
	3	①授業テーマ 犯罪心理学と刑事司法（1） ②授業概要

	刑事司法（犯罪捜査・裁判）と犯罪心理学との関連について説明し、受講者は、刑事司法での流れやそこでの心理学専門家の役割について自分の言葉で説明できるようになる。（E1） ③予習（120分） 以下の資料（PDF）を読む。 https://www.saibanin.courts.go.jp/videopamph/pamph/sennin.html ④復習（120分） 講義資料を再読し、刑事司法での犯罪心理学の役割について考える。
4	①授業テーマ 犯罪心理学と刑事司法（2） ②授業概要 刑事司法（矯正・保護）と犯罪心理学との関連について説明し、受講者は刑事司法での流れやそこでの心理学専門家の役割について自分の言葉で説明できるようになる。（E1、G1） ③予習（120分） 以下の資料を読む。 https://www.moj.go.jp/content/001225984.pdf 以下の動画を見る。 https://www.youtube.com/watch?v=mmMYiMIpC9E ④復習（120分） 講義資料を再読し、刑事司法での犯罪心理学の役割について考える。
5	①授業テーマ 犯罪心理学の源流 ②授業概要 実証的犯罪心理学の起源と、19世紀までの犯罪・非行理論について説明し、受講者は、遺伝と環境論争について自分の言葉で説明できるようになる。（E1） ③予習（120分） 以下の論文を読む。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jenvpsy/1/1/1_46/_pdf/-char/ja ④復習（120分） 犯罪事例を収集する。
6	①授業テーマ 犯罪と犯罪者の見かた（1） ②授業概要 20世紀の犯罪・非行理論について説明し、受講者は、発達の犯罪予防と社会開発的犯罪予防について自分の言葉で説明できるようになる。（E1） ③予習（120分） これまでの授業の資料を読み直す。 ④復習（120分） 講義資料を再読し、自分で調べた各種犯罪事例に適用する。
7	①授業テーマ 犯罪と犯罪者の見かた（2） ②授業概要 サブカルチャー理論など集団心理に基づく犯罪・非行理論について説明し、受講者は、組織犯罪、カルト、テロリズムなど近年の犯罪心理学の課題について自分の言葉で説明できるようになる。（I1、I3） ③予習（120分） 以下の論文を読む。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssp/16/3/16_KJ00004622720/_pdf ④復習（120分） 講義資料を再読し、自分で調べた各種犯罪事例に適用する。
8	①授業テーマ 犯罪不安と情報発信 ②概要 犯罪不安の規定因や、メディアと犯罪不安、情報発信の役割について説明し、受講者は、犯罪と犯罪不安のパラドックスについて自分の言葉で説明できるようになる。（I3） ③予習（120分） 自身の住んでいる都道府県の警察のツイッターで過去1か月間でどのような情報が発信されているか調べる。 ④復習（120分） 身近な情報発信事例を収集し、その問題点を考える。

9	①授業テーマ コミュニティと犯罪（1） ②授業概要 犯罪発生とコミュニティの関連について説明し、受講者は、防犯における自助・共助・公助の役割分担について自分の言葉で説明できるようになる。（G1） ③予習（120分） 町内会や自治会など、自身の住んでいる地域で行われている活動にはどんなものがあるか調べる（例；掃除、祭りの運営）。 ④復習（120分） 地域での防犯ボランティア活動の現状について調べ、課題を考える。
10	①授業テーマ コミュニティと犯罪（2） ②授業概要 防犯における自助・共助・公助の具体的事例について説明し、受講者は、現在実際に行われている防犯におけるこれら事例について自分の言葉で説明できるようになる。（G1） ③予習（120分） 以下の動画を見る。 https://www.youtube.com/watch?v=1UArnAvOA1E 以下の論文、記事を読む。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jenvpsy/2/1/2_31/_pdf https://www.sankei.com/article/20140712-M4GPQPEQVZI4BNG65VMXQCIV6Y/ ④復習（120分） 身の回りの公共空間・私的空間における防犯環境設計の適用例を収集する。
11	①授業テーマ 環境犯罪学と犯罪分析 ②授業概要 環境犯罪学の歴史と背景理論について説明し、受講者は、割れ窓理論と警察活動について自分の言葉で説明できるようになる。また、防犯環境設計や状況的犯罪予防とその背景の心理学的要因について、担当者の実務経験を踏まえて説明し、受講者は、各種応用例について自分の言葉で説明できるようになる。（E1） ③予習（120分） 以下の論文を読む。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jisss/38/0/38_173/_pdf/-char/ja ④復習（120分） 身の回りの公共空間・私的空間における状況的犯罪予防の適用例を収集する。
12	①授業テーマ エビデンスに基づく犯罪予防 ②授業概要 近年行政の各場面で注目されているEBPM（エビデンスに基づく政策形成）やナッジとその犯罪予防への適用について説明し、受講者は、各種犯罪対策の心理学的背景について自分の言葉で説明できるようになる。（E1） ③予習（120分） 以下の資料を読む。 https://psych.or.jp/publication/world094/pw08/ ④復習（120分） EBPMやナッジの適用事例を収集して整理する。
13	①授業テーマ 親密な関係者間暴力 ②授業概要 DV、デート暴力、ストーカーなどの親密な関係者間暴力の実態と原因について説明し、受講者は、親密な関係者間の予防に必要な要因について自分の言葉で説明できるようになる。（C1） ③予習（120分） 以下の資料を読んで、課題に取り組む。 https://chiba-dv.jp/ ④復習（120分） 講義資料を再読し、自分や友人が被害にあった場合の方策について考える。
14	①授業テーマ 犯罪被害者の心理と支援 ②授業概要 各種犯罪の被害者心理や日本における被害者支援制度について説明し、受講者は、被害

	時の通報や被害者に対する援助について自分の言葉で説明できるようになる。(C1) ③予習(120分) 以下の資料を読んで、課題に取り組む。 https://chibacvs.gr.jp/cartoon_reader ④復習(120分) 講義資料を再読し、犯罪と社会の関わりについて考える。
15	①授業テーマ 総括 ②授業概要 授業中にテストを行う。受講者は、犯罪心理学と危機管理について、科学的な知見を引用しながら自分の意見が述べられるようになる。(E1) ③予習(120分) 授業全体を見直す。 ④復習(120分) テスト問題を復習し、学習が足りない部分を中心に補充する。
関連科目	ヒューマンエラー論(RMGT2307)
教科書	教科書は使用せず、各授業回について講義資料を配布します。
参考書・参考URL	小俣謙二・島田貴仁(2011) 犯罪と市民の心理学－犯罪リスクに社会はどうかかわるか、北大路書房 警察政策学会編(2018) 社会安全政策論、立花書房 島田貴仁(2021) 犯罪予防の社会心理学－被害リスクの分析とフィールド実験による介入、ナカニシヤ出版
連絡先・オフィスアワー	連絡先は開講時にお伝えします。
研究比率	災害マネジメント10%：パブリックセキュリティ60%：グローバルセキュリティ20%：情報セキュリティ10%：危機管理学70%：法学30%

